

2019年2月号

2月15日(金)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

# 月刊 温根内通信 No. 269



## 凍る川、凍らない湧き水…

史上最強クラスともいわれた2月上旬からの大寒波。連日最低気温が-20℃を下回り、ヨシ・スゲ湿原を流れる小川にも氷が張りました。

しかし、そんな寒波が来ても湧き水は凍りません。そばには湧き水に餌を求めに来たタンチョウの足跡。そしてセグロセキレイが遊んでいるかのように枯葉をひっくり返しては餌をついばんでいました。

☆☆☆温根内ビジターセンター 探勝木道周辺の自然情報☆☆☆



～温根内探勝木道周辺の自然～



【ヤチボウ】 谷地坊主  
木道の入口付近や鶴居軌道沿いに見られ、季節ごとに色々な表情を見せてくれます。今は頭の上に雪をかぶせた状態で、春になると緑の新芽が顔を出します。



【エゾシカの食痕】  
シカ科 蝦夷鹿  
ミズゴケ湿原にはエゾシカの姿がよく見られます。前足で雪を掘って植物を食べた跡が残っており、そこには足跡も続いています。



【タンチョウの足跡】  
ツル科 丹頂  
湧水地に無数の足跡がついていました。複数羽の足が並走しており、親子連れが餌を求めに水場にやってきたのかもしれない。



【ネズミ類の足跡】  
雪原に目を凝らすと、小さい2本の足跡が点々とついている時があります。ネズミ類が穴から穴へ移動した跡です。運よく姿を見かける時もあります。



【モズのはやにえ (エゾトガリネズミ)】

ハンノキの枝にエゾトガリネズミが突き刺してありました。何とも残酷な姿ですが、これはモズの仕業で、捕らえた獲物を木の枝などに刺しておく習性があります。発見した次の日には頭部だけが食べられていました。これを「モズのはやにえ」と言い、昆虫やカエルが犠牲になる場合もあります。貯食行動とも考えられますが、この行動の理由は実のところよくわかっていないようです。

※釧路湿原国立公園ボランティアの会の方が見つけてくれました。

〇表紙の写真 上：氷が張った湿原の小川 中右：タンチョウの足跡 中左：湧き水とタンチョウの足跡 下：セグロセキレイ

## ～温根内探勝木道周辺の野鳥～

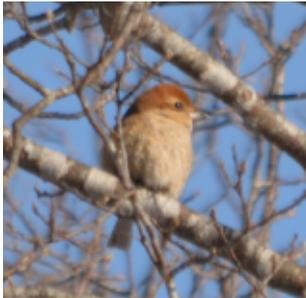
温根内周辺は雪が全面に覆い、冬らしい景色が広がっています。マヒワやベニヒワといった冬の小鳥があまり見られないのが残念ではありますが、混群を作って必死に餌を探る留鳥などは相変わらずよく見かけます。ビジターセンターでは双眼鏡を無料で貸出しております。お気軽に職員までお申し付けください。



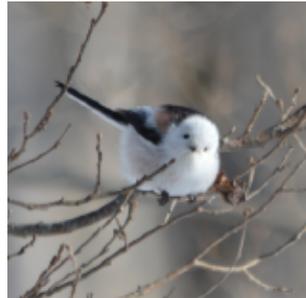
【オジロワシ】 冬鳥・留鳥  
タカ科 尾白鷲  
オオワシと双肩をなす冬のワシ類です。間近で見られる機会はあまりないですが写真を撮って見ると凛々しい顔つきをしています。



【オオアカゲラ】 留鳥  
キツツキ科 大赤啄木鳥  
勢いよく樹木を叩く音がしたら注意してみましょう。アカゲラとの違いのうち、本種のオスは頭頂部まで赤いのも特徴のひとつです。



【モズ】 夏鳥（一部越冬）  
モズ科 百舌鳥  
前ページ「モズのはやにえ」の犯人と思われま。秋までは昆虫を捕える姿を見かけましたが、ネズミ類も捕食しているようです。



【エナガ】 留鳥  
エナガ科 柄長  
常に群れで行動し、危険が迫ると「ピルルル…」という警戒音で仲間に注意を促します。冬は羽毛がふんわりして、愛らしさ倍増です。

○温根内探勝木道周辺で観察された鳥（1月15日～2月14日）和名は日本鳥類目録第7版の順

■オオハクチョウ■マガモ■タンチョウ■トビ■オジロワシ■オオワシ■オオタカ■ノスリ■コゲラ■コアカゲラ■オオアカゲラ■アカゲラ■モズ■カケス■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ハシブトガラ■ヒガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■エナガ■ゴジュウカラ■キバシリ■ツグミ■セグロセキレイ■マヒワ

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでお尋ねください。

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

## ☆☆☆☆ 自然ふれあい行事が開催されました ☆☆☆☆

○「歩くスキーで湿原ハイク」2月10日 参加者：13名

快晴のスキー日和となったこの日、歩くスキーで湿原とその周辺を散策する湿原ハイクを行いました。講師の本藤から、歩くスキーの構造を説明し、準備体操を入念にした後、まずはビジターセンター裏の森の中に入っていき体を慣らしました。森の中では雪上にカケスが猛禽類に襲われたと思われる血痕や羽根が残っており、その生々しい痕跡が印象的でした。遊歩道に戻り中間コースを経てからは、普段は立ち入れないヨシ・スゲ湿原へと入っていき、その雄大な雪原の風景に参加者は感動していた様子でした。今回の参加された方々は歩くスキーの経験が初心者からベテランまで様々でしたが、皆、その風景や生き物たちの痕跡探しを存分に楽しめたようでした。（講師：本藤泰朗）



## ☆☆☆☆ シリーズ ビジターセンターのお仕事 その③ ☆☆☆☆

ビジターセンター（VC）のお仕事紹介シリーズ、最終回は「③ビジターセンター・木道の維持管理」です。（①利用者への対応、②自然情報の収集・発信、についてはそれぞれ2018年10・11月号をご覧ください。）

VCの仕事の中で最も体力を使うのが今回の維持管理です。VC内は床面積が約576㎡。トイレも含めてここを毎日清掃します。館内の温度調整も重要で、特に季節

の変わり目は調整に気を使います。館内には薪ストーブがあり、その薪を用意するのも仕事のひとつです。

VCを起点に伸びている木道。来訪した方々が安全に歩けるよう、木道の状態を日々チェックするのも大事な仕事です。この木道にももちろん寿命があり、年を経るにつれてどうしても傷んでいきます。簡単に直せる程度の損傷は、VC職員や環境省の職員が修繕します。台風が通

過したり大雪が降ったりした後、木道沿いに倒木や傾いている木がないかもチェックします。もしそのような



木があった場合は、チェーンソーなどを用いて撤去します。(私はこの仕事に就いて初めてチェーンソーを扱いましたが、なかなか奥が深い道具です。)

また、冬の積雪時はVCの周りなどを除雪します。この除雪作業が最も体力を使う作業に感じます。新雪の上



を歩行者が通ってしまうと、雪が踏み固められてしまい滑りやすくなるため、できる限り歩行者が歩く前に除雪する必要があります。ここ北海道の太平洋側は水分を含んだ重たい雪が多く、その場合の除雪はかなりの力仕事になります。特に大雪の時は、除雪だけでほぼ1日が終わってしまう日もあります。このように(意外かもしれませんが)VCでは力仕事が続きます。皆さんがVCに入館された時、案内カウンターにいる職員をいつも見かけるとは思いますが、実は外出して作業していることも多いのです。

さて、3回にわたってVCでの仕事を紹介してきましたが、いかがでしたか?「思ったより地味だなあ…」と感じた方も多いかもかもしれません。ただ、地味な仕事ほど人目に付きにくいものです。逆に来館者を相手にしている姿は目立ちますよね。色々な仕事を通じてVCや木道が支えられていることを少しでもご理解いただけたら幸いです。(藤原伸也)

### ☆☆☆ 歩くスキー・スノーシュー 無料レンタル始めました! ☆☆☆

ビジターセンターではこの冬も歩くスキーとスノーシューの無料レンタルを開始しました。歩くスキーはいつもの木道や鶴居軌道跡を巡るコースのほか、右岸堤防を滑るコースもあります。それぞれのコースの詳細については、職員までお問い合わせください。

※思わぬ事故にも繋がりがかねないので、歩くスキー・スノーシューでは木道や指定のコースから出ないようにお願いいたします。



### ☆☆☆☆☆ イベントのご案内 (3月) ☆☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込み ☎ 0154-65-2323

♪湿原の裏山でスノーシューハイク

〔日時〕3月3日(日) 10:00~12:00 〔定員〕10名(小学生は保護者同伴)

〔参加費〕無料(スノーシューのレンタルも無料です)〔場所〕温根内ビジターセンター  
残雪の裏山をスノーシューで歩き、雪解けを待つ植物などを観察します。

○塘路湖エコミュージアムセンター(あるこっと) ⇒お申し込み ☎ 015-487-3003

♪塘路フィールドウォッチング

〔日時〕3月2日(土) 10:00~12:00 〔定員〕15名(小学生は保護者同伴)

〔参加費〕無料 〔集合場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

#### ~留鳥がさえずっています~

寒い日が続いていますが、天気の良い日にはカラ類などの留鳥の優しいさえずりが聞こえる時があります。春は少しずつ近づいてきています!



#### 月刊 温根内通信 No.269

発行: 釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel: 0154-65-2323 Fax: 0154-65-2185

E-mail: ovc@hokkai.or.jp

ホームページ: <http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/>

Facebook: [温根内ビジターセンター フェイスブック](#)

開館時間: 9:00~16:00 (4月~10月は17:00まで)

休館日: 毎週火曜日(12/29~1/3は休館) 入館無料